

施策No.	政策名	豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり	主管課	生涯学習課		
303	施策名	青少年の健全育成	関係課	学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
					見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値	見込値	実績値
的	市民(青少年とその保護者、地域住民)	①桜川市人口	人	見込値			45,122	44,571	44,020	43,190	42,571	41,952		
					実績値	46,575	45,673	45,105	44,449	43,826	43,190	42,651		
		②青少年人口	人	見込値				8,000	7,800	7,600	7,400	7,200	7,000	
					実績値	8,880	8,636	8,153	7,871	7,601	7,349	7,185		
的	心豊かにたくましく育つ	①家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合	%	目標値				45.0	46.0	47.0	48.0	49.0	50.0	
					実績値	—	47.6	49.0	46.0	51.3	46.3	48.4		
				②地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数		人	目標値			600	600	600	600	600
					実績値			780	601	507	680	695	0	610
的	成果指標設定の考え方			目標値										
					実績値									
						目標値								
							実績値							
目標値														
	実績値													
		成果指標の把握方法と算定式等			目標値									
						実績値								
目標値														
	実績値													

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと) ○「地域の子供は地域で育てる」という意識の醸成を図るため、市民は地域において青少年の育成の場をつくり、地域全体で青少年の健全育成を図る。	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと) ○地域の関連団体の育成やボランティア活動等に対する継続的な意識啓発活動を進め、地域が一体となり青少年が健全にのびのびと生活できる環境を創造する。
	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか? ○少子高齢化にともない、地区(小学校)単位で行っていた事業が、事務事業の平準化により、市一本化で実施する傾向にある。市単位で事業を実施することによって、参加者(子ども達)が制約され、底辺の活動が停滞する可能性が高い。「青少年の主張大会」などは市で実施することによって、より効果が上がると思われるが、子ども達の「生きる力」を育むための体験学習活動は地区(小学校)単位で実施したほうがよい。 ○地域の連帯意識が薄れ、地域教育力の低下が叫ばれている中で、子ども達の体験学習事業等に地域の三世帯が参加することによって、地域の連帯感の高揚にもなると思われる。 ○地区により、行政が主体的に実施するものと、市民会議や学校等が主体的に取り組んでいるなど差がある。 ○取り組む事業は地域の特性に合わせて行うことが理想であり、取り組みを継続していくことが重要である。	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○立志の集い。(真壁地区、市民会議で実施していた。)、岩瀬・大和地区(行政の補助金で実施していた。)運営方針や体制を統一してほしいという要望があった。 ○子どもに不便さを体験させたいという意見がある。(野外体験などを実施している。) ○三世帯の集いを復活させてほしいという意見もある。(コミュニティスクール事業と連携するとよい結果が出た。) ○高齢者と子どもたちのふれあう場を企画実施してほしい。との意見がある。 ○小中学生と高校生の交流を図るべきとの意見がある。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① 青少年活動の充実	青少年	生きる力を身につける	①体験教室の開催回数	実績値	60	56	45	31	30	29	
				回							
② 家庭教育の充実	青少年の保護者	家庭での教育力を高める	家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合	実績値	46.0	33.0	46.0	51.3	46.3	48.4	
				%							
③ 地域教育力の充実	地域住民	地域の教育力を高める	地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数	実績値	601	507	680	695	0	610.0	
				人							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

施策のコスト	項目	単位	26年度実績	27年度実績	28年度予算
	①本施策を構成する事務事業の数	件	16		14
②施策事業費(一般財源以外)	千円	100		0	0
③施策事業費(一般財源)	千円	3,672		3,540	4,135
④施策事業費の計(②+③)	千円	3,772		3,540	4,135
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	15,352		13,315	12,799
⑥計(④+⑤)	千円	19,124		16,855	16,934

5. 施策に関連する主要事業等

関連する事務事業	区分	事務事業名	摘要
	事務事業		コミュニティスクール事業
事務事業		青少年相談員運営事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
事務事業		放課後子どもプラン推進事業「放課後子ども教室」	H27貢献度上位
事務事業		青少年育成桜川市民会議運営事業	H27貢献度上位
事務事業		市子ども会育成連合会運営助成事業	H28優先度上位

施策番号	303	施策名	青少年の健全育成	主管課	生涯学習課
------	-----	-----	----------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)					
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)		
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した			
背景・要因	<p>・家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合は、25年度51.3%、26年度46.3%、27年度48.4%、2.1ポイント上回った。</p> <p>・青少年相談員が青少年が多く集まる市内で行われる祭事等で巡回指導を実施した回数は、22年度から25年度までは、毎年度8回(真壁祇園祭3日・岩瀬祇園祭2日・岩瀬盆踊り1日・大和地区夏休み2日)実施した。26、27年度は1日減り7回実施した。「青少年の健全育成に協力する店」等の訪問・登録促進活動については、26、27年度は130件の登録活動を実施した。巡回指導及び店舗訪問活動は青少年相談員の根幹的な活動であり、地域全体で見守る体制づくりに努めている。なお巡回指導における青少年への指導・保護の事例及び問題事例の発生はない。</p> <p>・地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数は、青少年育成桜川市民会議を中心に実施している「青少年のための社会環境浄化活動」の参加人数である。24年度は680人、25年度は695人、26年度は雨天で中止となった。27年度からは予備日を設定し実施した。27年度は610人で減少している。</p>				

1)②成果目標の達成状況					
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った		
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った		
背景・要因	<p>①家庭で悩みの相談や学校での出来事など、なんでも話している割合は、27年度の目標値49.0%に対し48.4%と0.6ポイント目標値を下回った。</p> <p>②地域で健全育成に取り組んでいる地区の参加延べ人数は、27年度の目標値は600人に対し610人と増加した。</p>				

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)					
実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である		
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である			
背景・要因	<p>・桜川市の青少年の健全育成事業は、他の自治体とほぼ同水準であり、多くの事業に取り組んでいます。なお、市民会議主催「青少年の主張大会」の運営方法の見直しを行い、市内中学校5校を持ち回り開催とし、27年度は桃山中学校で実施した。</p> <p>・あいさつ声かけ運動については、青少年育成市民会議・行政区長が中心となり、JR水戸線岩瀬駅、及び市内小・中・高等学校門前で取り組んだ。桜川市は市内の高等学校も積極的に参加しております。</p>				

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?					
実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である		
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である			
背景・特徴	<p>・青少年の健全育成事業として市内の全120行政区から地区会費を徴収して様々な事業に取り組んでいることから、住民が期待する青少年の健全育成に対する期待の大きさが伺われる。よって長年行ってきた青少年健全活動が市民に浸透していると思われる。相談員が巡回指導した回数や店舗訪問数、また社会環境浄化活動などの青少年育成事業への参加人数等では判断しがたいものがある。</p> <p>・総合計画後期計画の策定時におけるアンケート調査では、この施策における住民の優先度は低く、満足度は平均よりやや高く、現状維持項目である。結果、今後青少年健全育成活動を地道ではあるが継続的に行っていくことが必要である。</p>				

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・27年度においては、青少年に対し、「生きる力を身につける」を目標に重点的に取り組んだ。 ・事務事業貢献度評価結果から、具体的に施策の成果向上に貢献した主な事業は「青少年相談員運営事業」「青少年育成桜川市民会議運営事業」「コミュニティスクール事業」「放課後子どもプラン推進事業(放課後子ども教室)」であった。 ・「青少年相談員運営事業」は、市内の青少年が立ち寄りそうな店舗を訪問し、青少年の健全育成に協力する店登録活動を行うなど、新規店舗訪問を含め精神的に登録活動を実施した。また、街頭巡視活動、有害図書の入立調査など青少年を取り巻く環境の整備に努めた。 ・「青少年育成桜川市民会議運営事業」は、あいさつ声かけ運動事業(344名参加)、青少年の主張大会事業(464名参加)、及び会員の資質向上のために指導者研修会を実施した。なお、各支部においても青少年を対象とした特色ある事業を展開した。 ・「コミュニティスクール事業」は、真壁地区の小学校区ごとに地域の特性を活かした様々な取り組みを実施した。真壁小学校区では真壁小学校プールにおいて「親子ニジマス釣り&イワナの塩焼き」、紫尾小学校区では、校庭周辺を流れる川において「鮎のつかみ取り&バーベキュー」、谷貝小学校区では、校庭内においてPTA関係者及び子ども会と協力し「サマーキャンプ」、権徳小学校区では、つくば市の防災科学技術研究所Dr. 納口恭明氏をお迎えし、「おもしろ理科教室」を行い、延べ1,792名の参加があった。 ・「放課後子どもプラン推進事業(放課後子ども教室)」は、「おもしろ理科教室」「お料理教室」「作って楽しむ教室」「自然・歴史探検教室」の4つの教室を、年各4回計16回開催し307人の参加があった。参加児童は、各教室で初めて体験する出来事に積極的に活動し、学ぶことができた。 ・その他の事務事業では、「市子ども会育成連合会運営助成事業」「学校警察連絡協議会運営助成事業」等がある。 ・「市子ども会育成連合会運営助成事業」は、市内の子どもの交流と、学校以外での体験活動をさせるため、市内球技大会の開催(177名参加)や、桜つ探検隊での茨城県植物園(83名参加保護者含む)などの事業を実施した。 ・「学校警察連絡協議会運営助成事業」は、学校、警察、及び関係機関が緊密な連携をとり、児童生徒の健全育成を目的とした事業を行った。具体的には、長期休業中の対応等の協議(年3回)及び校外巡視活動(5回)、並びに会員の資質向上のための研修会(年3回)を実施した。
-------------	--

8. 総合計画後期基本計画(H24~)の振り返り

区分	これまでの取組成果	今後の課題(未着手の事業、未達成の理由など)	今後の方針
施策全体	<p>・地域の関連団体の育成やボランティア活動等に対する継続的な意識啓発活動を進め、地域が一体となり青少年が健全にのびのびと生活ができる環境の場を作った。</p>	<p>・青少年が抱える問題は年々深刻化しており、学校と家庭と地域の連携強化を図り、地域ぐるみで子どもたちを取り巻く様々な環境を改善するとともに、手本となる親や大人の自覚など意識を高めていく必要がある。</p>	<p>・学校、家庭、地域の連携強化を図り、地域ぐるみで子ども達を取り巻く様々な環境を改善するとともに、手本となる保護者や地域住民の自覚など意識啓発に努めます。</p>
基本事業	① 青少年活動の充実	<p>・多くの参加者を募るためのPR活動が必要となってくる。</p> <p>・関係機関との連携を密にして、必要に応じて青少年及び家庭を指導する。</p> <p>・各種事業を通じて、青少年の健全育成の啓発活動を推進する。</p>	<p>・多彩な地域活動やボランティア活動など、「見て、聞いて、体験して感動できる」活動を実施させ、これら豊かな体験をおし、子ども達の「生きる力を育みます。</p>
	② 家庭教育の充実	<p>・地域における青少年対策推進の中核として活動するため、青少年相談員が設置されました。研修会、夏祭り等の街頭指導、有害図書等自動販売機の立入調査、環境浄化キャンペーン、あいさつ声かけ運動、社会環境浄化活動をおこなってきました。</p>	<p>・学校等と連携しPTA活動や家庭教育学級を通じて、「子どもの見本となる保護者意識」を高めさせ、これら豊かな体験を充実し、ふれあいのある家庭づくりを推進します。</p>
	③ 地域教育力の充実	<p>・あいさつ声かけ運動、社会環境浄化活動、青少年の主張大会などの事業を行いました。次代を担う青少年が希望を持ち心豊かにたくましく成長し、社会の一員として自立できるような場を作った。</p>	<p>・青少年の健全育成はすべての市民の願いであり、使命でもある。青少年の人格形成には、日常生活における、親や大人の子どもに対する関わりが大きく影響することから関係団体と連携を図っていくことが重要である。</p> <p>・「社会環境浄化活動や地域防犯(見守り活動)及び地域の伝統行事」などを通して、「地域の子どもは地域で育てる」という意識を啓発します。</p>